

「福島浜通りトライデック」2024 年度事業報告
(2024 年 4 月～2025 年 3 月)

1 調査研究の継続

[調査研究の実施項目]

- ・米国ハンフォード地域の経済発展とその福島浜通り地域への適応に関する調査研究
- ・福島浜通り地域の復興状況と今後の課題等に関する調査研究
- ・福島浜通り地域の経済発展に資するニーズ等のマーケット調査
- ・「創造的文理融合型人材」育成のための教育研究プログラム開発に関する調査研究
- ・福島浜通り地域の歴史・文化に関する調査研究
- ・福島浜通り地域の観光の再発見に関する調査研究
- ・福島浜通り地域の暮らしを再生する地域貢献と社会活動のプロモーションに関する調査研究
- ・その他福島浜通り地域の新たな視点からの復興創生に資する調査研究

[調査研究の主な実施状況]

○ 福迫先生

- ・寄稿「これからのいわき(1)」『月刊りい〜ど』第 33 巻 1 号、令和 6 年 12 月 27 日。(「いわき版骨太の方針」を踏まえ、「幼児教育の充実」と「圏域まちづくり」を提言)
- ・寄稿：日曜論壇「マンハッタン／東京」福島民報、令和 6 年 3 月 31 日。(米マンハッタン計画とその現在から、福島について考えた)
- ・寄稿：日曜論壇「風船爆弾とキノコ雲」福島民報、令和 6 年 8 月 18 日。(米ハンフォード地域と福島浜通り地域の共通性について考えた)
- ・寄稿：日曜論壇「陽は昇り灯がともる」福島民報、令和 7 年 3 月 16 日。(阪神・淡路大震災から 30 年の神戸と三陸地方のまちの課題を考えた)

○ 鈴木先生(福島高専)

- ・1F 廃炉に関するロボットの研究開発の継続

2 福島浜通りを活性化するための連携教育プログラムの推進

- 文部科学省の「大学の世界展開力強化事業- 米国等との大学間交流形成支援-」の継続的推進

- ・海外相手大学・・・ワシントン州立大学トライシティーズ校、コロンビアベイスン短期大学
- ・国内連携大学等・・・東日本国際大学、福島工業高等専門学校、一般社団法人福島浜通りトライデック

[実施状況]

○ 米国学生・教職員の受入れ

2024 年度は、7 月～8 月に第 1 回の米国学生(ワシントン州立大学トライシティーズ校学生 2 名、コロンビアベイスン短期大学生 3 名の計 5 名)を受入れた。また、米国教職員(ワシントン州立大学トライシティーズ校教員 1 名及びコロンビアベイスン短期大学職員 1 名の計 2 名)を受入れた(第 1 回)。その際、福島での研修に入る前に、平和学習の一環として長崎(長崎原爆資料館、長崎平和公園等)及び広島(広島平和記念資料館等)において研修を実施した。さらに、日米共同ワークショップ(第 2 回)を東日本国際大学で開催した。

○ オンライン科目の構築

一方、授業科目の方は、オンライン科目として、7 月に「福島浜通り復興創生学」(履修者 49 名)、11 月に「ハンフォード復興創生学」(履修者 32 名、ハンフォード側受講者 169 名(内学生 12 名))を開始した。また、この 2 科目については、11 月に文部科学省と筑波大学が運営する「JV-Campus」に登載・公開し、世界中から聴講可能な状況となった。

○ 福島学生・教職員の派遣

2025 年 2 月～3 月に、第 2 回の福島学生(東日本国際大学学生 8 名、福島工業高等専門学校学生 2 名の計 10 名)の米国派遣を実施した。また、福島教職員(東日本国際大学教員 1 名及び職員 1 名の計 2 名)の米国派遣(第 2 回)を実施した。加えて、本プロジェクトの現在の進捗状況を確認するとともに、今後の方向性を検討するために、2025 年 3 月 20 日に、コロンビアベイスン短期大学において「福島・ハンフォード復興創生に関する国際会議(第 1 回)」を開催(Zoom 併用)した。

○ ホームステイ型(居住空間共有型)学習の実施

福島学生の米国派遣の学生については、ワシントン州立大学トライシティーズ校及びコロンビアベイスン短期大学の教職員・学生をはじめとする関係者の家にすべてホームステイし、研修活動以外でも米国の生の文化体験を経験することの出来る環境を設定した。一方、受け入れた米国学生については、福島浜通りの滞在期間中、東日本国際大学や福島工業高等専門学校の教職員・学生の家や、いわき国際交流協会が推薦するいわき市在住の市民の家にすべてホームステイし、研修活動

以外でも日本の生の文化体験を経験することのできるホームステイ型学習環境の場を設定した。

○ 国際的認知の獲得(現地米国メディアによる報道)

日本学生の米国派遣研修の様子が現地米国のテレビメディアにより取り上げられ、日米の「核災害からの再生地域」である福島県浜通り地域とトライシティーズが高等教育を通じてつながる画期的な国際プロジェクトとして紹介された。これは本事業の教育実践が、地域連携と国際協働の両方の側面において同時に高い評価を受けた証であり、福島県浜通り地域から発信される知の在り方に新たな価値が与えられたと言える。

○ コロンビアバيسン短期大学出身学生の東日本国際大学留学生別科への入学

福島学生が米国へ派遣(2023 年度)した際に、交流したコロンビアバيسン短期大学の学生 2 名が、東日本国際大学留学生別科に 2024 年 9 月に入学した。また、当該学生 2 名は、東日本国際大学附属昌平高等学校において、英語の授業を担当している。さらに、2025 年 4 月に、さらに 1 名の学生(2024 年 7 月～8 月に日本に受け入れた米国学生)が、留学生別科に新たに入学した。このように、本事業の枠を超えた日米間交流の新たな展開が始まってきている。

3 福島浜通り地域の復興創生に関するセミナーの開催

○ テーマ案……人材育成、農業、廃炉・ロボット、観光等

[実施状況]

○ 「復興学連続セミナー」を、東日本国際大学の授業科目「復興学」の中で一般にも Zoom を活用して公開し 2024 年 12 月に実施した。

第 1 回 米倉 一磨 氏 (NPO 法人なごみセンター長)

「生きて、生きて、生きる -災害看護と心のケア-」

第 2 回 大和田 新 氏 (ラジオパーソナリティ)

「伝えることの大切さ、伝わることの素晴らしさ」

第 3 回 小松 理虔 氏 (地域活動家)

「当事者から共事者へ -第三者と考える復興創生-」

4 復興創生に取り組んでいる関連組織との関係構築・連携強化

○ 福島国際研究教育機構(F-REI)との連携事業の実施

○ いわき市が実施する「福島国際研究教育機構」との連携に向けた関係機関情報交換会及び市町村座談会への参画

[実施状況]

- 「学校法人昌平黌と福島国際研究教育機構との連携協力に関する基本合意書」を、2024 年 6 月 7 日に締結した。また、同日、福島国際研究教育機構(F-REI) 山崎光悦理事長の記念講演会を東日本国際大学において開催した。
- 福島国際研究教育機構(F-REI)が運営する「エフとも」が、2025 年 5 月に設置され、福島大学、福島高専、東日本国際大学、いわき短期大学が参画している。
- 2025 年 4 月に開催された「F-REI 2 周年記念シンポジウム」に関係者が参加した。

5 会員拡大、広報活動の強化

- 浜通り南部のみならず、北部及び中部地域への展開
(地方公共団体、商工会等との連携)
- 会員数の拡大(役員、顧問、評議員からの紹介、ウェブサイト等)

[実施状況]

- 会員数はさほど増加しなかった。
 - ・ 団体正会員 (12 団体(発足時) → 17 団体(2025 年 7 月末))
 - ・ 団体賛助会員 (3 団体(発足時) → 2 団体(2025 年 7 月末))
 - ・ 個人正会員 (18 人(発足時) →16 人(2025 年 7 月末))